

経営比較分析表（令和5年度決算）

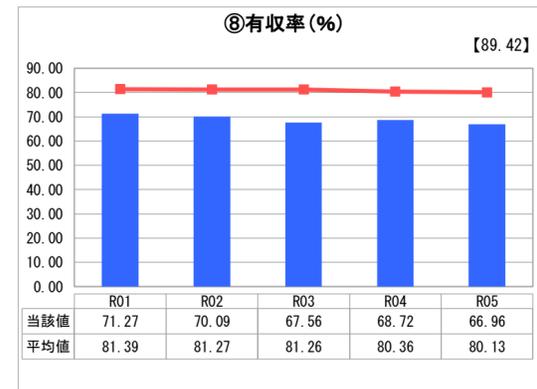
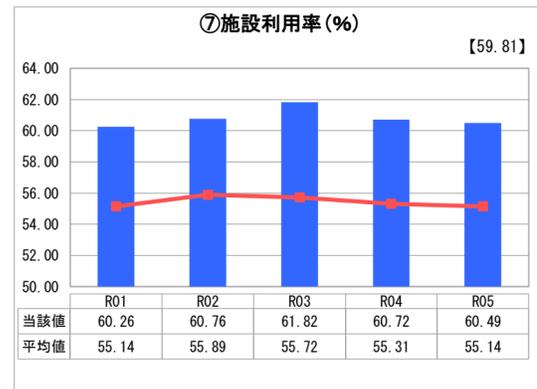
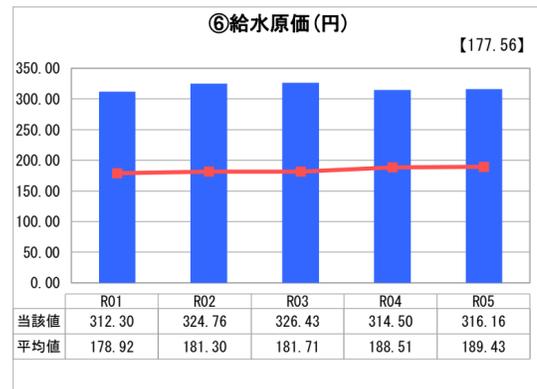
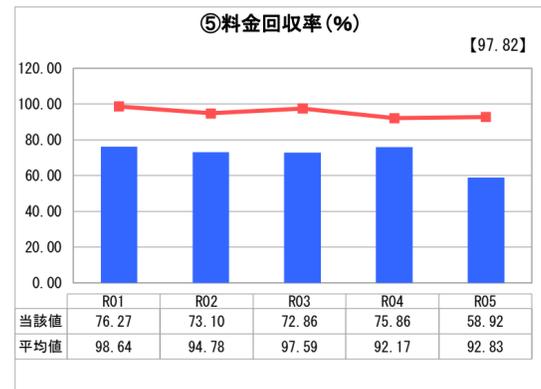
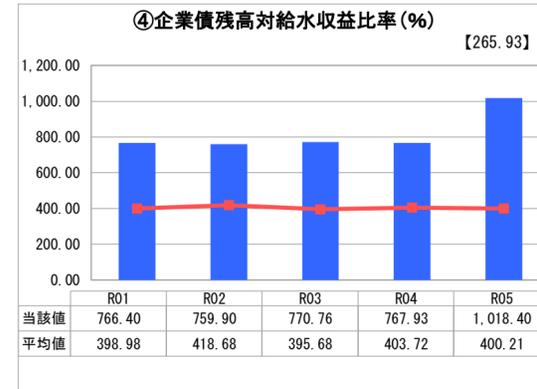
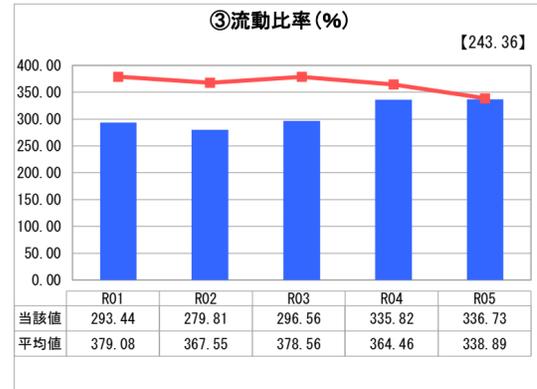
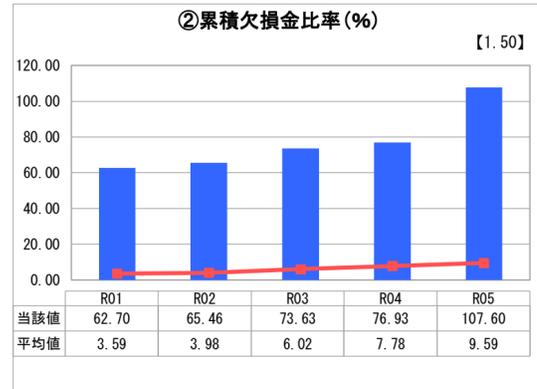
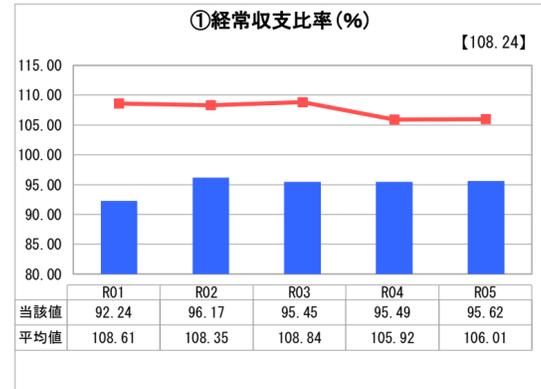
長崎県 西海市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	43.79	98.11	4,596	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
25,437	241.84	105.18
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
24,808	175.00	141.76

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
□	令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率：赤字であった簡易水道事業との統合（平成29年度）により大幅に低くなっている。令和元年度以降、徐々に回復し、95%前後を推移している。多額の減価償却費の負担が大きく、現行の料金水準では増収は見込めないことから、中長期を見据えた適正な料金水準の検討を行う必要がある。

② 累積欠損金比率：簡易水道事業との統合以降発生しており、今年度も累積欠損金が生じている。

③ 流動比率：緩やかに上昇傾向にあり、現状では特に問題ない。

④ 企業債残高対給水収益比率：平成29年度の統合以降大幅に増加している。今後も高い水準で推移することが見込まれるが、可能な限り企業債の借入額を抑制するなど改善に努める。

⑤ 料金回収率：簡易水道事業との統合により70%台の低い水準で推移している。今後も人口減少等による給水収益の減少が見込まれるため、料金改定による財源確保が必要である。

⑥ 給水原価：簡易水道との統合により上昇し、今後も高い水準で推移することが見込まれる。

⑦ 施設利用率：類似団体を上回っており、効率的な施設運営ができており、今後も効率的な施設運営を念頭に整備を行う。

⑧ 有収率：漏水調査による修繕や、老朽管の更新に取り組んでいるが、有収率の増加には至っていない。引き続き、漏水対策に取り組む必要がある。

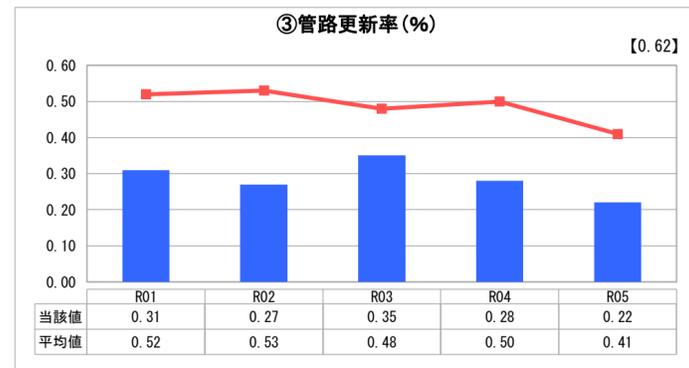
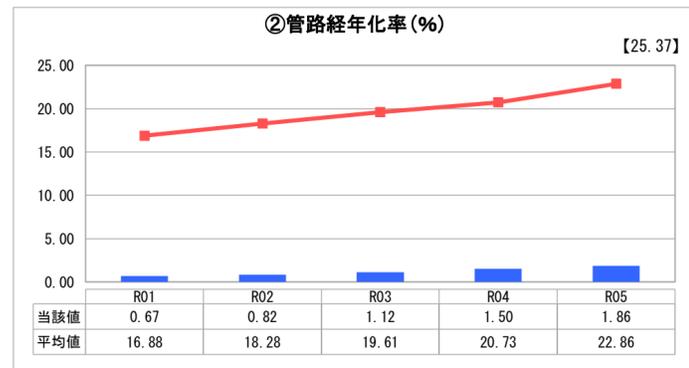
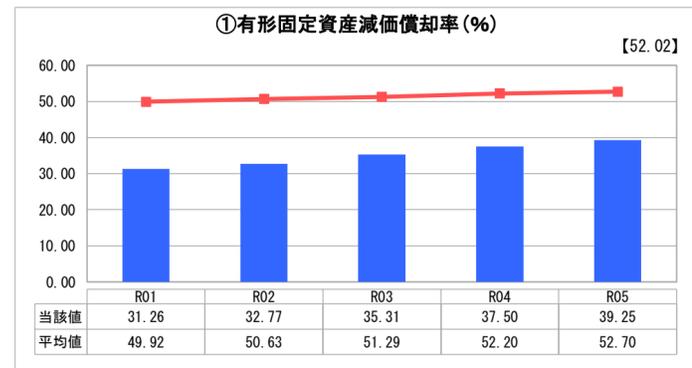
※コロナ交付金を活用した水道料金の減免（R5.9月からR6.3月分）の影響を受けるものは以下のとおり。
参考値：②84.90 ④793.46 ⑤73.63

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率：類似団体平均値を下回っており、比較的新しい施設や管路が多いといえる。今後、水道施設の多くが順次老朽化していくため、健全な機能を確保しながら適切な設備投資を図る必要がある。

水道サービスを安定して供給するため、経営戦略の施設更新方針に基づき、施設の老朽度や重要度などを踏まえて、計画的に実施することが必要である。

2. 老朽化の状況



全体総括

安定した水道サービスを供給するため、経営状況を見ながら更新費用の平準化を図り、計画的に事業を実施する必要がある。また、人口減少等に伴い給水収益が減少傾向にあることや、老朽化している施設や管路の更新事業により、多額の支出が見込まれることから、経営環境は厳しさを増すことが予測される。経営の健全化を確保するため、料金改定による収益の増加や、経費の削減、中長期的な視点に立った計画的な更新事業の推進に努める。